

渋谷治美教授の人と業績

高 橋 雅 也 埼玉大学教育学部社会科教育講座

1. お人柄について

渋谷先生と最初にお会いしたのは、私の採用面接のおりである。おもに日本の地域社会を研究してきた私に、海外でのフィールドワークや研究成果の発信を行う考えがあるかと問われた。それは研究の国際化を促すのみならず、比較社会による理論構築という社会科学の本義を説かれたように感じられ、身が引き締まったのを覚えている。そして、いざ着任しての歓迎会で、当の渋谷先生から私の拙い新任あいさつをほめていただいたさいには、講座に迎え入れられた思いがして大変嬉しかった。

学生の厚生補導では、1年生担任として渋谷先生と行田の埼玉古墳群や古代蓮の里、忍城などにご一緒した。大人数の引率をあまり得意としない私は、行程表や参加者名簿にせわしなく目を落としていたが、先生は終始ゆったりと各所を巡られていた。ときおり現地ガイドや学芸員に質問もされ、そのように自ら楽しまれる姿をとおして、学生に範を示されていた。とりわけ、古代蓮の花と葉の形状や発芽について、熱心に質問されていたことは、後述する自然科学と仏教へのご関心からであったかと思えば、納得のいくものであった。以来、いつそう渋谷先生に親しみを感じるようになった。

ご趣味はじつに多彩で、将棋、映画、音楽、野球と幅広く、かつ深く追求されている。将棋はアマチュア四段相当の腕前で、新宿の道場に通いつめた時期もあるとのこと。終日道場にいれば30局はこなしたそうである。また映画は、中学生の時分に監督を夢見たこともあるそうで、技法や構図よりも表現の本質に目を向けた映画批評は、ときにはご講義の素材にもなるとお聞きした。そして音楽では小学校、中学校、大学とコーラス部に所属され、ご本人が教師の商売道具と語る「のど（声）」を存分に鍛えられた。こうした一連のご趣味は、いずれも「人間とは何か」というテーマに通底しており、野球も個々のプレイヤーの役割に注目するとちがった人間ドラマが見えてくるそうである。

渋谷先生は、いわばそうした総合的な人間力を大学運営においても発揮された。2004年から2008年にかけて教育学部・学部長を務められ、現在も本学部教育の核心をなしている「力量ある質の高い教員」養成の取り組みを力強く推進された。また、つづく2008年から3年半にわたって、副学長として埼玉大学の60周年記念事業の推進にあたられた。このような重責を果たし切ることは、たとえ胆力に恵まれても誰もが成しうるものではない。

いずれにせよ、渋谷先生のお人柄や、そのご人徳を以て大学の内外で果たされてきたお仕事を余さずに記すには、私などはお付き合いがまだまだ浅いのであるが、その限りでも、倫理学者／教育者／生活者としての先生の横顔は、厳しくもお優しい、また洒脱さに富んで映じる。諸先輩方、OBやOGにおいてはなおのことであるにちがいない。

2. 研究業績について

渋谷先生は、いうまでもなくドイツ哲学者のカント（Immanuel Kant: 1724-1804）の業績を「人間哲学」として総合するご研究で知られる。カントとの出会いは高校時代にまで遡り、人の生や死を真摯に論じられた当時の恩師が「倫理・社会」でカントに2時間を割いた授業が印象深いとのこと。学生運動に情熱を傾けられたのち、大学院の修士1年から本格的にカント研究に着手された。先生によれば、「人間とは何か」を問うていく総合人間学の着想を得たという点においても、社会の土台が壊れゆく時代に、闘争に先立つ啓蒙の力を信賴することができるという点でも、マルクスやヘーゲルでなく「カントを選んだことは正解」であったとのこと。

ご著書『逆説のニヒリズム』（花伝社）にも記されるとおり、唯物論を信仰し、したがって無神論者であり、人間観はカントに影響を受けたという先生の明快な自己同定は、首尾一貫したご研究のスタイルに反映されている。哲学思想はもちろんのこと、天文学・生物学・脳生理学・動物行動学などの自然科学に始まって、宗教・芸術・社会科学にいたる人類の営為に分け入り、関心のウイングを大きく広げながら、そこには人間存在の自由や疎外への透徹した眼差しがある。それは『リア王と疎外—シェイクスピアの人間哲学』（花伝社）にも豊かに結実している。

人間の生や死の無根拠さに対峙する「宇宙論的ニヒリズム」は、超越的な存在に仮託して生きる根拠や意義を求めるような「幻想」を厳しく退け、ソクラテス的な知性主義を批判する。ニーチェとともに先生が語るところにしたがえば、ニヒリズムは、その身も蓋もない帰結に恐れおののく秩序志向のアポロンの精神文化から、創造と激情の「ディオニュソス的」なるものを解放する。

考えてみれば、学校の教師というのは児童生徒に広義の「社会化」を促し、社会秩序の形成者を育てる仕事なのであるが、その教師を育てる教育学部において、「獲得された」というよりも「無前提な」秩序・規範志向をもつ学生たちには、そうした価値観の自己対象化がどれほど大事なところか。渋谷先生が上梓されてきたご研究は、そのような意味でも重要な業績である。

また、渋谷先生は東京大学倫理学研究室における和辻以来の伝統、すなわち「東洋と西洋の両刀使い」を継承され、鎌倉仏教の祖師である親鸞（1173-1262）や道元（1200-1253）の思想も精力的に探究されてきた。親鸞に関する限りでも、解釈における「歎異抄主義」への批判と、反批判といった今日的な動向を見据えながら、新たに展開中とのことである。それは他力と自力の対比において語られる親鸞と道元の交差点をさぐる試みであり、二個の異なる他者同士がもちうる両義性への視点は、シェイクスピアの戯曲『マクベス』論において、渋谷先生が指摘するマクベスと夫人の「乖離的二人三脚」にも響き合うものであり、まさしく領域横断的に人間を論じる先生の真骨頂といえるだろう。

渋谷先生は目下『総合人間学の構想と試み』というご著書の出版を計画中とのこと。ためしに章立てをしてみると、そこに浮かび上がってきたものは「やはりカントであった」。そのカントに導かれたご自身の歩みを「幸せ者」と振り返る先生であるが、その旺盛な研究意欲と、それにたいする私共の期待はやむところがない。

渋谷治美教授履歴等一覧

生年月日：1948年（昭和23年）07月25日

I. 学歴

1967.03 静岡県立静岡高等学校 卒業
 1967.04 東京大学教養学部文科Ⅲ類 入学
 1969.12 東京大学文学部 進学（Ⅰ類倫理学科。大学闘争により文学部は進学が遅れる）
 1972.03 東京大学文学部 卒業（1年留年）（文学士）
 1972.04 東京大学大学院人文科学研究科修士課程倫理学専門課程 入学
 1975.03 同上 修了（1年留年）（文学修士）
 1975.04 東京大学大学院人文科学研究科博士課程倫理学専門課程 進学
 1978.03 同上 単位取得満期退学

II. 職歴

1979.04 東京大学 助手 文学部
 1982.04 埼玉大学 講師 教育学部
 1984.04 埼玉大学 助教授 教育学部
 1997.04 埼玉大学 教授 教育学部
 2002.04 （併任）東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 教授
 2014.03 埼玉大学および東京学芸大学大学院 定年退職

この間に

1984.09～1985.03 東京大学文学部 内地研修（文部省（当時）内地研究員制度による）
 1987.08～1988.04 ウィーン大学基礎総合学部（当時）哲学科 研究派遣（日本学術振興会「特定国派遣研究者」制度による）
 1995.05～1998.03 東京大学大学院人文科学研究科 併任助教授
 1997.01 ウィーン大学基礎総合学部（当時）哲学科 客員教授（集中講義）

これ以前からこの間に掛けて非常勤講師を多数勤める。数例を挙げる。

1990.07 信州大学文学部 非常勤講師（集中講義）（諫早勇一氏の推薦による）
 1995.07 神戸大学文学部 非常勤講師（集中講義）（山本道雄氏の推薦による）
 2000.07～08 弘前大学文学部 非常勤講師（集中講義）（五十嵐靖彦氏の推薦による）
 2011.04～07、2012.04～07 東京大学文学部 非常勤講師（関根清三氏の推薦による）
 2011.04～2013.03 慶應義塾大学文学部 非常勤講師（樽井正義氏の推薦による）

III. 大学における教育活動

倫理学原論、倫理学概論、倫理学演習、倫理学特講、哲学概論、人文科学基礎演習、社会科指導法、倫理学演習（院）、倫理学特論（院）、他多数

IV. 学会

- 1975.04～ 日本倫理学会 現在に至る（幹事1979.04～1982.03）
- 1975.04～不詳 東京唯物論研究会（委員1998.10～2001.09、その間に編集次長1998.10～2000.09、編集長2000.10～2001.09を務める）その後退会
- 1976.10～ 日本カント協会 現在に至る（委員1998.04～現在に至る、常任委員：2012.04～現在に至る、その間に編集委員会委員2006.12～2008.11を務める）
- 1978.10～不詳 唯物論研究協会（全国唯研）その後退会
- 1989.10～不詳 日本ショーペンハウアー協会 その後退会
- 1990.04～ Kant-Gesellschaft e. V. (Mainz) (国際カント協会) 現在に至る
- 1993.07～不詳 日本シェリング協会 その後退会
- 1994.05～ 日本哲学会 現在に至る（委員2005.06～2007.05、その間に会誌『哲学』編集委員2001.06～2005.05を務める）
- 2006.～不詳 総合人間学会 その後退会

V. 大学運営

a. 学部

独法化等学部構想委員会委員長、教育学部運営企画室室長等を経て

2004.04～2008.03 教育学部 学部長

2012.07～2014.03 学部戦略室 室員

b. 大学

1999.01～2002.03 埼玉大学 学長補佐

2002.04～2004.03 埼玉大学 評議会評議員

2004.04～2011.09 国立大学法人埼玉大学 教育研究評議会評議員

2008.04～2011.09 国立大学法人埼玉大学 副学長（広報担当）

c. 連合大学院

2002.04～2008.03 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 研究科委員会委員

VI. 社会貢献活動

a. 学術関係

1999.06～2006.12 和辻哲郎文化賞（姫路市姫路文学館）〔学術部門〕推薦委員

2004 第20回（2004）京都賞（稲盛財団）思想・芸術部門「哲学・思想」受賞候補者推薦者、（J. ハバーマスを推薦、結果として彼が受賞）

2004年度～2006年度 （独）日本学術振興会科学研究費委員会第二段審査委員会 専門委員（「哲学」部門「倫理学」分野）、（2005年度・幹事、2006年度・部門責任者）

2007年度～2008年度 （独）日本学術振興会特別研究員等審査会 専門委員

2008年度 （独）日本学術振興会国際事業委員会 書面審査委員

2009年度～2011年度 （独）日本学術振興会科学研究費委員会基盤研究（S）第二段審査委員会 専門委員（人文・社会科学分野）

2012年度～ （一般社団法人）日本アスペン研究所 諮問委員 現在に至る

2013.05 （独）日本学術振興会「博士課程教育リーディングプログラム」書面審査

委員

b. 教育関係

1997年度	平成9年度教科用図書検定調査審議会（文部省） 調査員
1997年度～2004年度	（特殊財団法人）愛郷育英会 評議員（その後理事、現在に至る）
2004年度～2005年度	小・中学校初任者研修実施協議会（さいたま市立教育研究所）委員
2004年度～2005年度	教員の評価に関する研究委員会（さいたま市教育委員会）委員長
2004年度～2007年度	埼玉県高等学校教育振興協議会（埼玉県教育委員会）委員
2004年度～2007年度	「埼玉教育」教育実践論文審査委員会（埼玉県教育委員会）委員長
2004年度～2007年度	特別免許状意見聴取会議（埼玉県教育委員会）委員長
2004年度～2007年度	「学びの向上さいたまプラン」検討会議（さいたま市教育委員会）委員
2004年度～2007年度	さいたま市立教育研究所運営委員会（さいたま市教育委員会）委員長
2004年度～2007年度	教育実践報告審査委員会（埼玉県教育公務員弘済会）委員長
2004年度～2008年度	初任者研修実施協議会（埼玉県立総合教育センター）委員
2004年度～2008年度	10年経験者研修実施協議会（埼玉県立総合教育センター）委員
2004年度～2007年度	日本教育大学協会 評議員
2004.11～2008.03	埼玉大学教育学部と埼玉県教育委員会との連携協議会 副委員長
2004.11～2008.03	埼玉教育コラボレーション推進委員会 委員長
2005年度～	（特殊財団法人）愛郷育英会 理事 現在に至る
2006年度	平成18年度入試改善検討委員会（埼玉県教育委員会）委員長
2006年度～2007年度	学校の組織運営に関する研究協議会（さいたま市教育委員会）議長
2006年度～2007年度	20年経験者研修における効果的な研修法方法等の工夫改善に関する協議会（埼玉県立総合教育センター）委員
2006年度～2007年度	行田市費負担教職員採用選考審査会（行田市教育委員会）委員
2007年度	さいたま市教育ビジョン策定委員会（さいたま市教育委員会）委員長
2007年度	中高一貫教育推進運営協議会（さいたま市教育委員会）委員
2007年度	さいたま市学力調査検証改善委員会（さいたま市教育委員会）委員長
2007年度～2008年度	埼玉県教育振興基本計画検討会議（埼玉県教育委員会）副座長
2008年度	第一回彩の国未来創造フェア実行委員会（埼玉県教育委員会）委員
2008年度	さいたま市立高等学校教育推進委員会 委員長
2008年度～2009年	中央教育審議会 専門委員（初等中等教育分科会教員養成部会課程認定委員会）、（その後臨時委員、現在に至る）
2008年度～2010年度	指導不適切教員判定委員会（さいたま市教育委員会）委員
2008年度～2011年度	埼玉県教育委員会の事務に関する点検評価委員会（埼玉県教育委員会）委員
2010.04～	中央教育審議会 臨時委員（初等中等教育分科会教員養成部会所属、課程認定委員会委員を兼務） 現在に至る
2012年度	魅力ある県立高校づくり懇話会（埼玉県教育委員会）座長
2012年度～2013年度	さいたま市教育行政点検評価委員会 委員長
2012年度～2013年度	（公立大学法人）埼玉県立大学教育研究審議会 外部委員
2013.08～2013.11	さいたま市教育総合ビジョン改訂有識者会議 委員長

2013.10～2014.03	さいたま市中高一貫教育検討会議 委員長
c. 行政関係・その他	
1983.02～1984.01	埼玉大学教職員組合 書記次長
1994.02～1995.01	埼玉大学教職員組合 委員長
1999.06～2010.06	(生活協同組合) さいたまコープ 理事
2006年度～2007年度	埼玉県NIE推進協議会 会長
2008年度～2012年度	(特定非営利活動法人)「そよかぜ」(学内保育所) 理事
2009年度	さいたま新都心公共公益施設等導入機能検討委員会(さいたま市) 委員長
2009年度～2011年度	埼玉県スポーツ振興まちづくり推進会議(埼玉県) 委員
2010年度～2011年度	岩槻まちづくり区民検討委員会(さいたま市) 委員長
2012年度～2013年度	(公財) さいたま市文化振興事業団評議会 議長
2013年度	さいたま市総合振興計画審議会 副会長(第二部会長を兼務)

VII. 賞罰

2004.10.21 平成16年度埼玉県消費生活功労者表彰

渋谷治美教授研究業績等一覧

A. 研究業績

I. 著書（編著書、単著、共著）

1. 1980.05 （共著）『倫理の展開』高文堂出版社、栗田義彦氏・松村健吾氏との共著、担当：第二章「人格」 pp.85-147
2. 1984.04 （共著）『市民社会の哲学と現代』青木書店、佐藤和夫氏・尾関周二氏・岩尾龍太郎氏・平子友長氏との共著、担当：第四章「身心問題から自己実現論へ」 pp.123-160
3. 1992.01 （共編著）『現代カント研究3 実践哲学とその射程』晃洋書房、カント研究会、平田俊博氏との共編、掲載論文：「カントにおける価値の序列——〈実践理性の優位〉の新しい解釈のために——」 pp.91-124、（巻頭言「『現代カント研究』第三巻刊行にあたって」 pp. i - ii も執筆）
4. 1993.03 （共著）『宗教と寛容——異宗教・異文化間の対話に向けて——』大明堂、竹内整一氏・月本昭男氏の共編、掲載論文：「唯物論と宗教」 pp.263-283、（のち著書5.『逆説のニヒリズム』花伝社に収録。シンポジウム2.参照）
5. 1994.12 （単著）『逆説のニヒリズム』花伝社、234 pp.、（のち増補改訂版、著書10.）
6. 1999.07 （単著）『シェイクスピアの人間哲学』花伝社、235 pp.、（のち改題増補改訂版、著書12.）
7. 1999.08 （共著）『死生観と生命倫理』東京大学出版会、関根清三氏編、担当：第五章「西洋（近・現代）価値ニヒリズムの系譜」 pp.65-79
8. 2001.03 （共著）『ニヒリズムからの出発』ナカニシヤ出版、竹内整一氏・古東哲明氏編、担当：第二章「現代自然科学と〈宇宙論的ニヒリズム〉」 pp.26-46
9. 2005.04 （共編著）『ニヒリズムとの対話——東京・ウィーン往復シンポジウム——』晃洋書房、Günther Pöltner氏との共編、掲載論文：「カントにおける価値のコペルニクスの転回——価値ニヒリズム回避の対スピノザ防衛戦略とその破綻——」 pp.21-47、（「あとがき」 pp.205-207も執筆）
10. 2007.03 （単著）『新版 逆説のニヒリズム』花伝社、253pp.（著書5.の増補改訂版）
11. 2008.02 （共著）『カント哲学のアクチュアリティ』ナカニシヤ出版、坂部恵氏・佐藤康邦氏編、掲載論文：「カントと黄金律」 pp.57-87
12. 2009.06 （単著）『リア王と疎外 シェイクスピアの人間哲学』花伝社、285pp.、（著書6.の改題増補改訂版）

II. 論文

1. 1974.12 （修士論文）「カントにおける人間理性の叡知性と自由」、提出先：東京大学大学院人文科学研究科、（400字詰原稿用紙126枚）
2. 1977.03 「カントの純粹統覚と物自体」、日本倫理学会『倫理学年報 第26集』以文社、pp.45-58、（査読有）
3. 1978.07 「カントにおける人間の存在・自由・価値—その1—」、東京唯物論研究会『唯物

- 論 第52号』、pp.50-64
4. 1981.08 「カントにおける人間の存在・自由・価値—その2—」、東京唯物論研究会『唯物論 第55号』、pp.89-103
 5. 1981.11 「カントの幸福批判論」、唯物論研究協会『唯物論研究 第5号』汐文社、pp.119-133
 6. 1982.01 (学界素描)「倫理学界の現状と史的唯物論」、『科学と思想 第43号』新日本出版社、pp.55-60
 7. 1982.09 「南泉の鎌子話は無理会か」、東京唯物論研究会『唯物論 第56号』、pp.86-92
 8. 1983.03 「カントにおける〈subjektiv-objektiv〉対応の多義性とその連関構造」、小倉志祥教授還暦記念会『実存と倫理』以文社、pp.137-156
 9. 1984.03 「身心問題と自己実現 (1) —デカルトの場合—」、『埼玉大学紀要教育学部 (人文・社会科学Ⅰ)』第32巻、pp.1-17
 10. 1985.10 「唯物論的人間学の構想の試み」、東京唯物論研究会『唯物論 第59号』、pp.115-131
 11. 1985.10 「レヴィ＝ストロースの超知性主義——人間的思惟の原型を求めて——」、唯物論研究協会『思想と現代 第3号』白石書店、pp.62-73
 12. 1986.01 「身心問題と自己実現 (2-1) —スピノザの場合 (その1) —」、『埼玉大学紀要教育学部 (人文・社会科学)』第34巻、pp.21-33
 13. 1987.03 「カントにおける〈身心問題〉の止揚——人間悟性の自己対象化的性格の剔抉へ——」、日本倫理学会『倫理学年報 第36集』慶應通信、pp.53-69、(査読有)
 14. 1989.04 「グルック「アウリスのイフィゲニア」鑑賞記——ノモスとピュシスの葛藤とその欺瞞的処置の解明——」、東京唯物論研究会『唯物論 第63号』、pp.119-135、(のち著書5、『逆説のニヒリズム』花伝社に収録)
 15. 1990.03 「Kants Aufhebung des Leib-Seele-Problems. —Zu seiner Erläuterung des sich selbst vergegenständlichenden Charakters des Menschenverstandes.—」、『埼玉大学紀要教育学部 (人文・社会科学Ⅱ)』第39巻第1号別冊 (福島正義・中山正民両教授退官記念号)、pp.125-143、(論文13.の独訳)
 16. 1990.12 「ショーペンハウアーにおける価値ニヒリズムの問題——カントとの対質を通して——」、『昭和大学教養部紀要 第21巻』、pp.37-50
 17. 1991.07 (学界インフォメーション)「カント研究会」、『理想 No.647』理想社、pp.115-120
 18. 1991. “Kants Erläuterung der Selbst-Verwirklichung des Menschen-verstandes. —Zu einer anderen Auffassung der ‘Kritik der reinen Vernunft’.—”, in *Akten des Siebten Internationalen Kant-Kongresses. Bd. II. 2.*, hrsg. v. G.Funke, Bouvier, pp. 499-507
 19. 1992.01 「カント哲学の現代的蘇生の可能性」、『理想 No.648』理想社、pp.87-96、(口頭発表7.の活字化)
 20. 1993.01 「宗教と疎外」、唯物論研究協会『思想と現代 第32号』白石書店、pp.69-83、(のち著書5、『逆説のニヒリズム』花伝社に収録)
 21. 1997.03 「〈くわだて〉と〈はかりごと〉——人間の本質の解明のために——」、『埼玉大学紀要教育学部 (人文・社会科学Ⅲ)』第46巻第1号別冊 (小貫徹教授退官記念号)、

- pp.35-46
22. 1998.03 「親鸞と道元——1997年1月ウィーン講義——」、『埼玉大学紀要教育学部（人文・社会科学）』第47巻第1号別冊（柿沼利昭教授退官記念号）、pp.59-79
 23. 1999.03 「人間の自由と〈はかりごと〉」、国士舘大学哲学会『国士舘哲学 第3号』、pp.1-6
 24. 1999.07 「カントと価値ニヒリズムの問題」、『理想 No.663』理想社、特集：カントと現代、pp.99-109、（口頭発表9.の活字化）
 25. 2001.11 “Kant und das Problem des Wert-Nihilismus”, in ‘Kant und die Berliner Aufklärung.’ *Akten des IX. Internationalen Kant-Kongresses. Bd.3.*, hrsg. v. V. Gerhardt, R. -P. Horstmann u. R. Schumacher, De Gruyter, pp.327-333、（口頭発表10.の活字化）
 26. 2002.10 「唯物論と価値ニヒリズム——ノモス批判と宇宙論からの接近——」、唯物論研究協会『唯物論研究年誌 第7号』青木書店、小特集：唯物論とニヒリズム、pp.201-225
 27. 2003.11 （訳者解説）「解説 実用的見地における人間学」、『カント全集15 人間学』岩波書店、pp.517-547
 28. 2007.06 「道元における循環の問題——『正法眼蔵』第一巻「現成公按」読解試論——」、森田武教授退官記念会『森田武教授退官記念論文集 近世・近代日本社会の展開と社会諸科学の現在』新泉社、pp.383-409
 29. 2007.09 「カントと愛国心批判」、日本カント協会『日本カント研究8 カントと心の哲学』理想社、pp.71-84、（シンポジウム9.提題の活字化）
 30. 2009.09 「カント「観念論論駁」再考——「定理」の主語の二重性を中心に——」、『埼玉大学紀要教育学部』第58巻第2号、pp.217-232、（口頭発表15.の活字化）
 31. 2010.03 「『純粹理性批判』「演繹論」の根本問題・再考——三つの難問の同型性をめぐって——」、『埼玉大学紀要教育学部』第59巻第1号別冊1（白井宏明教授退職記念号）、pp.99-116、（口頭発表16.の活字化）
 32. 2010.11 「直近のカント論文への補遺」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野2008・2009年度卒業論文集合併号『対称性の破れ』、pp.8-20、（「直近のカント論文」は論文30.を指す）
 33. 2011.03 「「見える大学」と「見えざる大学」——または学問論を装ったカントの党派性について——」、『埼玉大学紀要教育学部』第60巻第1号、pp.93-105、（シンポジウム4.提題の活字化）
 34. 2012.09 （共著）「いまを生きる社会運動の行為者——A.メルッチの集合行為論を中心に——」、保坂直人氏との共著（第二執筆者）、『埼玉大学紀要教育学部』第61巻第2号、pp.113-126
 35. 2013.11 （共著）「社会運動の行為とは何か——メルッチとトゥレーヌの対質——」、保坂直人氏との共著（第二執筆者）、『埼玉大学紀要教育学部』第62巻第2号、pp.113-126
 36. 2014.03 「親鸞思想の「絶対他力」の秘密——「誹謗正法」の唯除条項をめぐって——」、『埼玉大学紀要教育学部』第63巻第1号別冊（渋谷治美教授退職記念号）、pp.169-184、（「履歴」集中講義1997.01ウィーン大学（親鸞の部分）、口頭発表8.、講演a.

2.、講演 a.11.、講演 a.13.(親鸞の部分)、講演 a.15.を一本に活字化)

III. 口頭発表

1. 1977.10.14 「Kantに於ける objektiv-subjektiv 対応の多義性とその連関構造」、日本倫理学会第28回大会、自由課題の部、於：四国学院大学、(のち論文8.)
2. 1984.10.28 「シェイクスピアにおける善と悪」、唯物論研究協会第7回研究大会、個人研究発表の部、於：早稲田大学文学部
3. 1986.11.29 「『第一批判』 演繹論 §24の難問 Schwierigkeit をめぐって」、日本カント協会第11回学会、一般研究発表の部、於：広島大学
4. 1987.03.30 「カント『純粹理性批判』 演繹論の根本問題——悟性の自由の性格をめぐって——」、東京大学倫理学会研究会第1回例会、於：東京大学山上会館、(口頭発表3. に若干手を加えたもの)
5. 1989.10.01 「ショーペンハウアーの価値ニヒリズムの問題」、日本ショーペンハウアー協会第2回大会、於：日本大学、(のち論文16.)
6. 1990.04.01 “Kants Erläuterung der Selbst-Verwirklichung des Menschenverstandes. —Zu einer anderen Auffassung der ‘Kritik der reinen Vernunft’.—”, 7. Internationaler Kant-Kongreß, von 28. März bis 1. April, 1990, Kurfürstliches Schloß, Mainz. (のち論文18.)
7. 1990.12.01 「カントにおける自己意識と対象性をめぐって」、日本カント協会第15回学会、特別報告「第7回国際カント学会の報告」の部、於：東北学院大学、(のち論文19.)
8. 1998.10.24 「『歎異抄』「地獄は一定すみかぞかし」の正読のために」、日本倫理学会第49回大会、自由課題の部、於：関東学院大学、(のち論文36.)
9. 1998.11.28 「カントにおける価値のコペルニクス的転回——カントと価値ニヒリズムの問題——」、日本カント協会第23回学会、一般研究発表の部、於：山口大学人文学部、(のち論文24.、さらに著書9. に収録)
10. 2000.03.31 “Kant und das Problem des Wert-Nihilismus.”, 9. Internationaler Kant-Kongreß, 26. von März bis 31. März, 2000, Humbolt-Universität, Berlin. (のち論文24.)
11. 2000.10.15 (提題)「カントとドイツ観念論の遺産と課題——価値ニヒリズムの問題——」、日本倫理学会第51回大会、共通課題「倫理思想史の遺産と課題」、(提題者8人中の1人)、於：東京大学文学部
12. 2001.01.26 “Der Europäische Nihilismus aus Japanischer Sicht (Kant und das Problem des Wert-Nihilismus).” Sondervortrag an der Institut für Philosophie der Universität Wien, Wien. (口頭発表10. と同じ [10. で省略したところもすべて話す])
13. 2003.10.26 「『人間学』におけるカントの二重の二枚舌について」、カント研究会第178回例会、於：上智大学、(論文27. を基に)
14. 2007.08.26 「カントと黄金律」、カント研究会第214回例会、於：法政大学、(のち著書11. に収録)
15. 2008.11.15 「『観念論論駁』再論」、日本カント協会第33回学会、一般研究発表の部、於：九州大学文学部、(のち論文30.)

16. 2009.08.30 「『純粋理性批判』『演繹論』の根本問題・再説」、カント研究会例会、於：法政大学、(のち論文31.)
17. 2011.10.22 「カントの人間哲学を総合的に把握することは可能か」、慶應義塾大学三田哲学学会哲学・倫理学部門例会、於：慶應義塾大学三田キャンパス
18. 2012.04.29 「カント人間思想の総合的把握はいかにして可能か——カントに関する10の仮説——」、カント研究会第260回例会、於：法政大学
19. 2013.08.25 「カント「嘘論文」の二枚舌について」、カント研究会第273回例会、於：法政大学

IV. 日本学術振興会科学研究費による研究

1. 1976-1977 (総合研究 (A) 連携研究者) 「近代成立期の倫理思想——ルネッサンスを中心に——」、研究代表者：東京大学教授小倉志祥先生、(のち報告書1.に収録)
2. 1979-1981 (総合研究 (A) 研究分担者) 「近代変革期の倫理思想」、研究代表者：東京大学教授小倉志祥先生、(のち報告書2.に収録)
3. 1982 (奨励研究 (A) 研究代表者) 「アカデミー版全集によるカント総合研究のための基礎作業」、課題番号：57710013、(900千円)
4. 1985-1987 (基盤研究 (C) 研究代表者) 「総合人間学の体系構想——人間の原像と疎外の問題——」、課題番号：07610034、(1,700千円)、(のち報告書4.に纏める)
5. 1988-1990 (基盤研究 (C) 研究代表者) 「近代ドイツのニヒリズムの系譜」、課題番号：10610032、(2,700千円)、(のち報告書5.に纏め、さらに著書7.に収録)
6. 2003-2005 (基盤研究 (C) 研究代表者) 「ドイツ観念論と価値ニヒリズムの問題」、課題番号：15520006、(2,300千円)
7. 2008-2010 (基盤研究 (C) 研究代表者) 「現代西洋思想と価値ニヒリズムの問題」、課題番号：20520007、(1,700千円)
8. 2011-2013 (基盤研究 (C) 研究代表者) 「カントの人間哲学の総合的理解の試み」、課題番号：23520014、(1,600千円)

V. シンポジウムのパネリスト等

1. 1980.12 (座談会司会) 「自然と人間——自然科学の人間像と哲学的人間観の接点をめぐって——」、東京唯物論研究会『唯物論 第54号』、pp.1-28、出席者：吉田邦久氏・海部宣男氏・長沼真澄氏・渋谷治美 (企画・司会)・渡辺憲正氏・清 真人氏
2. 1993.03 「シンポジウム 寛容の倫理・非寛容の論理」、竹内整一氏・月本昭男氏編『宗教と寛容——異宗教・異文化間の対話に向けて——』大明堂、pp.317-359、出席者：竹内整一氏 (司会)・井上順孝氏・月本昭男氏・渋谷治美・高島元洋氏、(著書4.参照)
3. 1996.02.29 (研究集会提題者) 「「人生」についての極限思考の試み」平成7年度教員養成大学・学部等教官研究集会——時代の課題に取り組む道德教育——、第二分科会「生命の教育をどう進めるか」、主催：文部省・千葉大学、コーディネーター：諸富祥彦氏、於：千葉大学

4. 1997.11.22 (提題者)「「見える大学」と「見えざる大学」」、日本カント協会第22回学会、シンポジウム「カントの大学・教育論」、於：上智大学、(のち論文33.)
5. 2001.09 (座談会司会)「学力低下と大学教育」、埼玉大学広報誌『樗 No.4』、pp.2-5、出席者：岡部恒治氏・岩川直樹氏・蛭多令子氏・渋谷治美(司会)、於：埼玉大学大学本部
6. 2001.11.17 (シンポジウム司会)「カントの目的論」、日本カント協会第26回学会、提題者：牧野英二氏・望月俊孝氏・中村博雄氏、司会：渋谷治美・田村一郎氏、於：埼玉大学
7. 2002.10.27 (シンポジウム・パネリスト)「生きることをどう語るか」、唯物論研究協会第25回大会、テーマ別分科会第一分科会、パネリスト：中山一樹氏・渋谷治美、司会：中西新太郎氏、於：高崎経済大学
8. 2003.10.12 (シンポジウム総合司会)「ニヒリズムと現代」、日本倫理学会第54回大会、提題者：谷隆一郎氏・新田章氏・藤野寛氏・船木亨氏・気多雅子氏・伊藤益氏・田中久文氏・芹沢俊介氏、総合司会：渋谷治美・鹿島徹氏
9. 2006.11.25 (共同討議提題者)「カントと愛国心批判」、日本カント協会第31回学会、共同討議「カントと愛国心」、提題者：加藤泰史氏・渋谷治美、司会：新田孝彦氏、於：北海道大学、(のち著書11.)
10. 2012.10.17 (シンポジウム・モデレーター)「これからの人材育成——高まる東アジアの存在感——」、第3回東アジア地方政府会合・日本アスペンシンポジウム、パネリスト：小林陽太郎氏・白井克彦氏・荒井正吾氏、モデレーター：渋谷治美、於：ならまちセンター(奈良)
11. 2013.10.16 (シンポジウム・パネリスト)「企業活動とヒューマニティ——決断の根拠を求めて——」、日本アスペン研究所創立15周年記念シンポジウム、パネリスト：北城格太郎氏・レナード・A. ローダー氏・渋谷治美・E. ガーソン氏・藤山知彦氏、モデレーター：堂目卓生氏、於：東京会館
12. 2014.02.11 (シンポジウム・モデレーター)「地域経済をリードする人材」、パネリスト：小島明氏・吉田佳代氏・荒井正吾氏、モデレーター：渋谷治美、於：奈良県文化会館

VI. 翻訳

1. 1981.09 (共訳) H. ハイムゼート『カントと形而上学』以文社、小倉志祥先生監訳、共訳者：渋谷治美・平田俊博氏・岩尾龍太郎氏、翻訳担当論文：「カント哲学における人格性の意識と物自体」、pp.11-79(うち訳注pp.72-79)、原題：“Persönlichkeitsbewußtsein und Ding an sich in der Kantischen Philosophie.”
2. 1992.01 (共訳) G. プラウス『カント認識論の再構築』晃洋書房、共訳者：中島義道氏・渋谷治美・円谷裕二氏・福田喜一郎氏、担当：pp.1-105、原題：‘Einführung in die Erkenntnistheorie.’、(「はじめに」p. i の翻訳も担当)
3. 1992.03 G. ペルトナー「美的判断力批判における合目的性の概念」、『埼玉大学紀要教育学部(人文・社会科学Ⅱ)』第41巻第1号別冊1(福宿光一教授退職記念号)、pp.81-90、原題：“Der Begriff der Zweckmäßigkeit in der Kritik der ästhetischen Ur-

teilskraft.”

4. 1993.06 G. ペルトナー「ウィーン大学哲学科の百年と現在」、『理想 No.651』理想社、pp.112-123、原題：“Das Institut für Philosophie der Universität Wien.”
5. 1996.01 G. ペルトナー『美と合目的性——カント『判断力批判』の批判的蘇生——』晃洋書房、171pp.、(論文集のため原題は略)
6. 2003.11 I. カント『実用的見地における人間学』、『カント全集15 人間学』岩波書店に収録、本編331pp.、訳注 pp.430-502、解説 pp.517-547(論文26.)、原題:‘Anthropologie in pragmatischer Hinsicht.’、(「人間学遺稿」の翻訳・訳注・解説は高橋克也氏が担当)

VII. 報告書・編集等

1. 1978.03 「マルシリオ・フィチーノの人間論——精神の本性をめぐって——」、大川瑞穂氏との共同研究報告(文責は渋谷)、昭和51-52年度科学研究費補助金(総合研究(A))研究成果報告書『近代成立期の倫理思想——ルネッサンスを中心に——』、研究代表者：東京大学教授小倉志祥先生、pp.20-26、(活版印刷)
2. 1983.06 「身心問題から自己実現(外化)論へ——カントを転軸点として——」、昭和54～56年度科学研究費補助金(総合研究(A))研究成果報告書『近代変革期の倫理思想』、研究代表者：東京大学教授小倉志祥先生、pp.74-80、(活版印刷)
3. 1993.03 (編集)片木清「カント『永遠平和論』の歴史的意義と方法論の問題(Ⅱ)」、『埼玉大学紀要教育学部(人文・社会科学)』第42巻第1号、pp.19-31
4. 1998.03 (報告書)「総合人間学の体系構想——人間の原像と疎外の問題——」、平成7～9年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書54pp.
5. 2001.03 (報告書)「近代ドイツのニヒリズムの系譜」、平成10～12年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書76pp.

VIII. 書評

1. 1973.05 海部宣男『銀河から宇宙へ』新日本新書、掲載紙：東京大学生生活協同組合「ほん」編集委員会「ほん No.14」
2. 1975.07 「ベトナムを共に喜ぶ権利を問う」、芝田進午『ベトナムと思想の問題』青木書店、掲載紙：東京大学生生活協同組合「ほん」編集委員会「ほん No.34」
3. 1976.11 「軍事芸術創造の内面を読む」、バン・ティエン・ズン(世界政治資料編集部訳)『サイゴン解放作戦秘録』新日本出版社、掲載紙：東京大学生生活協同組合「ほん」編集委員会「ほん No.47」
4. 1976.12 「生物科学と社会科学との総合」、佐藤七郎編『現代生物学の構図』大月書店、掲載紙：東京大学生生活協同組合「ほん」編集委員会「ほん No.48」
5. 1985.05 吉田傑俊『戦後思想論』青木書店、掲載誌：唯物論研究協会『思想と現代 No.1』白石書店、p.128
6. 1988.04 「〈受難した子供〉を論じて唯物論の三元徳に至る」、清真人『言葉さえ見つけることができれば〈哲学の架橋〉』同時代社、掲載誌：『葦芽 No.9』みずち書房、pp.170-177
7. 1989.12 亀山純生『人間と価値』青木書店、掲載誌：唯物論研究協会『思想と現代

No.20』白石書店、p.124

8. 1991.10 (読書感想文)「塩野七生を読む」、掲載誌：愛郷育英会『愛郷 第4号』、pp.48-49、対象作品：『チェーザレ・ボルジア あるいは優雅なる冷酷』新潮文庫、『ルネサンスの女たち』中公文庫、『神の代理人』中公文庫、『ロードス島攻防記』新潮文庫、『コンスタンティノーブルの陥落』新潮文庫、『レパントの海戦』新潮文庫、『海の都の物語 上・下』中公文庫、『サロメの乳母の話』中公文庫
9. 1993.10 (読書感想文)「夏休みの読書体験」、掲載誌：愛郷育英会『愛郷 第6号』、pp.40-42、対象作品：ジッド『贗金づくり 上・下』岩波文庫、フローベール『ボヴァリー夫人 上・下』岩波文庫、フローベール『感情教育 上・下』岩波文庫、T. E. ロレンス『知恵の七柱 上・中・下』東洋文庫、他
10. 1994.10 (読書感想文)「雑感」、掲載誌：愛郷育英会『愛郷 第7号』、pp.28-30、対象作品：高野悦子『二十歳の原点』新潮文庫、トマス・マン『魔の山』新潮文庫、シュテファン・ツヴァイク『ジョセフ・フーシェ』岩波文庫、D. H. ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』新潮文庫
11. 1994.11 (読書感想文)「遅蒔きの文学鑑賞——委員長の雑談——」、掲載紙：埼玉大学職員組合新聞No.34、対象作品：
12. 1995.09 「「単独者」とコミュニケーション」、尾関周二編『ラディカルに哲学する 第3巻 思想としてのコミュニケーション』大月書店、掲載誌：東京唯物論研究会『唯物論 第69号』、pp.157-158
13. 1996.07 牧野英二『遠近法主義の哲学 カントの共通感覚論と理性批判の間』弘文堂、掲載紙：(株)読書人“週刊読書人 第2145号”
14. 1998.10 (読書感想文)「戦争文学を読む」、掲載誌：愛郷育英会『愛郷 第11号』、pp.34-36、対象作品：吉田満『戦艦大和の最期』角川文庫、大岡昇平『野火』新潮文庫、大岡昇平『俘虜記』新潮文庫、大岡昇平『レイテ戦記 上・中・下』中公文庫、火野葦平『土と兵隊・麦と兵隊』新潮文庫、野間宏『真空地帯』新潮文庫、五味川純平『ノモンハン 上・下』文春文庫
15. 1999.04 (読書案内)「六冊の本」、掲載紙：埼玉大学生生活協同組合書評紙“草の葉 No.17”、対象作品：今村仁司『近代性の構造』講談社、永井均『〈私〉のメタフィジックス』勁草書房、永井均『〈魂〉に対する態度』勁草書房、平子友長『社会主義と現代世界』青木書店、古茂田宏『醒める夢冷めない夢』はるか書房、三島憲一『戦後ドイツ——その知的歴史——』岩波新書、F. ゼッフィレリ『ゼッフィレリ自伝』創元ライブラリ
16. 1999.06 太田直道『精神の描きかた「足もとと哲学」への誘い』青木書店、掲載紙：“全国唯研ニュース No.74”、(無署名)
17. 2000.06 石川文康『カント第三の思考 法廷モデルと無限判断』名古屋大学出版会、掲載誌：日本カント協会『日本カント研究Ⅰ カントと現代文明』理想社、pp.181-182
18. 2001.11 (推薦図書)「現代思想Ⅱ」、掲載誌：埼玉大学生生活協同組合書評紙編集委員会『大学生が読む本』、pp.49-51、(書評15. の転載)
19. 2001.12 北岡武司『カントと形而上学 物自体と自由をめぐる』世界思想社、掲載誌：岡山大学哲学倫理学会年報『邂逅 第19号』、pp.27-34

20. 2003.05 石川文康『カント第三の思考——法廷モデルと無限判断——』名古屋大学出版会、掲載誌：京都ヘーゲル読書会『ヘーゲル学報 第5号』、pp.198-206、(書評17.とは別)
21. 2003.12 亀山純生『中世民衆思想と法然浄土教〈歴史に埋め込まれた親鸞〉像への視座』、大月書店、掲載誌：東京唯物論研究会『唯物論 第77号』、pp.108-113
22. 2006.10 「結構の妙」、阿佐田哲也『麻雀放浪記(一) 青春編』角川文庫、掲載誌：『別冊國文学 ギャンブル破滅と栄光の快楽』學燈社、pp.76-77
23. 2011.07 「人間と構造」、M. フーコー(王寺賢太訳)『カントの人間学』新潮社、掲載誌：日本カント協会『日本カント研究12 カントと日本の哲学』理想社、pp.223-226

IX. 事典項目・解説

1. 1983.07 「人間讃歌の思想——カント」、唯物論研究協会『哲学を学ぶ人のために』白石書店、pp.151-155
2. 1997.04 『倫理思想辞典』山川出版社、編集：星野勉氏・三嶋輝夫氏・関根清三氏、担当項目：悪、義務、厳格主義、幸福、定言命法、唯物論、アダム・スミス
3. 1997.12 『カント事典』弘文堂、編集顧問：有福孝岳氏・坂部恵氏、担当項目：二元論、マルクス主義、唯物論、病、ハイムゼート、倫理学(小倉志祥先生との共同執筆)
4. 1998.03 『岩波哲学・思想事典』岩波書店、編集：広松渉氏・他六名、担当項目：道德宗教、道德的信仰、ペシミズム、理性の事実
5. 2008.11 (解説)「森鷗外『かのように』」、日本アスペン研究所「日本アスペン・ジュニアセミナー」テキスト
6. 2008.11 (解説)「カント『実用的見地における人間学』」、日本アスペン研究所「日本アスペン・ジュニアセミナー」テキスト
7. 2009.04 『新カトリック大事典 IV』研究社、編集：新カトリック大事典編纂委員会、担当項目：フォイエルバッハ、ムア
8. 2012. (解説)「シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』」、日本アスペン研究所「日本アスペン・ヤングエグゼクティヴセミナー」テキスト
9. 2012. (解説)「孟子『孟子』」、日本アスペン研究所「日本アスペン・ヤングエグゼクティヴセミナー」テキスト

B. その他の業績

1. 随筆等

1. 1973.03 「ユトリロ雑記」、雙葉中学校・高等学校『ふたば 第37号』、pp.32-37
2. 1984.04 「能「黒塚」鑑賞雑記——極楽は地獄で、地獄が極楽——」、埼玉大学教育学部社会科学専修人文社会科学分野卒業論文集第1集(1983年度)『現成公按——現実が問題である——』、pp.19-26
3. 1985.03 「映画「アラビアのロレンス」私記」、埼玉大学教育学部社会科学専修人文社会科学分野卒業論文集第2集(1984年度)『むらだより』、pp.4-8
4. 1986.04 「How, What, Why について——一つの哲学的妄想——」、埼玉大学教育学部社会

- 科専修人文社会科学分野卒業論文集第3集（1985年度）『草莽崛起』、pp.43-50
5. 1987.04 「「リア王」と疎外」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第4集（1986年度）『雑魚の眼——マーケティングされてたまるか——』、pp.20-35、（のち著書6.『シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録）
 6. 1989.08 「『最後の皇帝』鑑賞ノート」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第5、6合併号（1987、1988年度）『おむすびころりん・鬼のみぬ間に』、pp.31-42、（のち著書10.『新版 逆説のニヒリズム』花伝社に収録）
 7. 1990.04 「人間世界における善悪の転倒——シェイクスピア『マクベス』暫定試論（Ⅰ）——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第7集（1989年度）『大器晩成?!——みのがしてくれよう——』、pp.125-139、（のち著書6.『シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録）
 8. 1991.12 「順接と逆説——一つの哲学的断想——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第8集（1990年度）『またまたムラだより』、pp.99-109
 9. 1992.12 「〈善悪の転倒〉から〈善悪の彼岸〉へ——シェイクスピア『マクベス』暫定試論（Ⅱ）——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第9集（1991年度）『百戦練磨——海中より盆中に溺死する者多し——』、pp.25-41、（のち著書6.『シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録）
 10. 1993.03 「二つの『夏の夜の夢』——ウィーンでの演劇とバレエの鑑賞記——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第10集（1992年度）『出たところ勝負』、pp.29-36、（のち著書6.『シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録）
 11. 1994.03 「悪の哲学またはイアーゴウの擁護——シェイクスピア『オセロー』試論——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第11集（1993年度）『七転罵倒 終われば不況パラダイス』、pp.19-34、（のち著書6.『シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録）
 12. 1995.05 「シェイクスピアにおける男と女——純愛と獣愛の弁証法——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第12集（1994年度）『1994年度卒業論文集』、pp.17-27、（のち著書6.『シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録）
 13. 1995.10 「映画三昧」、愛郷育英会『愛郷 第8号』、pp.19-22、対象作品：『望郷』『太陽がいっぱい』
 14. 1996.05 「呪いとは何か——シェイクスピアにおける呪い・雑考——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第13集（1995年度）『格物致知』、pp.28-39、（のち著書6.『シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録）
 15. 1996.10 「映画三昧(二)」、愛郷育英会『愛郷 第9号』、pp.33-36、対象作品：『髪結いの亭主』『ユリシーズの瞳』
 16. 1997.06 「映画評論のエチュード」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野卒業論文集第14集（1996年度）『単純系 97』、pp.16-24、対象作品：『昼顔』『潮騒』『ラルジャン』『バルタザールどこへ行く』『ローラーとバイオリン』『旅芸人の記録』『こうのとりの、たちずさんで』『アンダーグラウンド』『地下水道』『仕立て屋の恋』
 17. 1997.07 「映画鑑賞記から」、白壁会『白壁 第12号』、pp.142-147、対象作品：『霧の中の風景』『道』

18. 1998.03 「ロシアン・ルーレットと交通事故」、『指導資料 倫理』、東京書籍、pp.190-191
19. 1999.05 「助詞「が、に」等、紛らわしい表現一覧」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野1998年度卒業論文集『世紀末イヴ』、pp.27-34
20. 2000.03 「なぜアメリカ映画を観ないのか?!」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野1999年度卒業論文集『世紀末そしてミレニアムへ』、pp.19-22
21. 2001.03 「倒錯のすすめ」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野2000年度卒業論文集『行き当たりばったり』、pp.41-45
22. 2002.04 「ドイツ観念論と価値ニヒリズムの問題・序——ブッシュの「無限の正義」概念を手がかりに——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野2001年度卒業論文集『世界同時多発テレ』、pp.21-20
23. 2003.05 「最近の映画感想ノートから」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野2002年度卒業論文集『北風と太陽』、pp.25-31、対象作品:『風と共に去りぬ』『橋の上の娘』『海の上のピアニスト』『クリクリのいた夏』『見出された時』『スターリングラード』『地獄の黙示録』『歌え!フィッシャーマン』『非情城市』『ベルリン・天使の詩』『こころの湯』『蝶の舌』『アパートの鍵貸します』『エルミタージュ幻想』
24. 2005.04 「シェイクスピアと私」、埼玉県立総合教育センター『埼玉教育 第59巻第4号』、コラム「けやき」、pp.44-45、(のち著書12、『リア王と疎外 シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録)
25. 2005.05 「カント版〈人づきあいの極意〉」、埼玉県立総合教育センター『埼玉教育 第59巻第5号』、コラム「けやき」、pp.42-43
26. 2005.06 「『源氏物語』の魅力」、埼玉県立総合教育センター『埼玉教育 第59巻第6号』、コラム「けやき」、pp.42-43
27. 2005.09 「随想三題」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野2004年度卒業論文集『祝祭の日々よ、永遠なれ』、pp.19-24、(随筆24, 25, 26, の転載)
28. 2006.07 「顧みて、正負二つの反省」、日本学術振興会『学術月報 Vol.59, No.7』、「若手研究者への手紙」欄、p.74
29. 2006.10 「『源氏物語』読了直後の意外な発見」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野2005年度卒業論文集『さよなら押し出しフォアボール』、pp.9-15
30. 2006.11 「『源氏物語』読了直との意外な発見」、愛郷育英会『愛郷 第19号』、pp.9-15、(随筆30, の転載)
31. 2007.07 「転校の時代」、埼玉県立総合教育センター『埼玉教育 第61巻第7号』、コラム「けやき」、pp.44-45
32. 2007.08 「芸術覚醒の時代」、埼玉県立総合教育センター『埼玉教育 第61巻第8号』、コラム「けやき」、pp.44-45
33. 2007.09 「趣味の時代」、埼玉県立総合教育センター『埼玉教育 第61巻第9号』、コラム「けやき」、pp.44-45
34. 2008.02 (巻頭提言)「教育の二つの大前提——心と体を巡って——」、「教育さいたま No.18」、特集:豊かな心とたくましい体の育成、pp.4-7
35. 2008.02 「私の小中高の思い出」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野2006年度卒業論文集『昭和は遠くなりけり』(本来2007.04に発行すべきもの)、

- pp.13-18、(随筆31, 32, 33. を微修正したうえで転載)
36. 2009.02 「教育と人間——教育とは何か・再考——」、埼玉大学教育学部社会科学専修人文社会科学分野2007年度卒業論文集『リーマン・シスターズ』(本来2008.04に発行すべきもの)、pp.12-31、(講演b. 6. の活字化)
 37. 2009.03 「シェイクスピアの華麗で辛辣な人間観察——疎外と悪を中心に——」、日本アスペン研究所叢書『アスペン講演集 No.2』、pp.1-58、(講演a. 7. の活字化、のち著書12, 『リア王と疎外 シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録)
 38. 2010.01 「禅思想にどうアプローチするか——道元を手がかりに」、日本アスペン研究所“アスペン・フェロー No.19”、pp.10-13、(講演a. 8. の活字化)
 39. 2010.10 (巻頭言)「「ゆとり」再考」、“SYNAPSE No.2”、ジアース教育新社、pp.2-3
 40. 2011.01 (巻頭言)「三つの自己実現の出会い」、“SYNAPSE No.5”、ジアース教育新社、pp.2-3
 41. 2011.03 埼玉県立総合教育センター編『「埼玉教育」随想・コラム集』、pp.233-250 (随筆24, 25, 26, 31, 32, 33. の全六本を収録)
 42. 2011.04 「カント哲学を現代に蘇生する 人間の自由と世界市民思想を中心に」、埼玉大学広報誌“樗 特別号”、pp.9-10
 43. 2011.05 (巻頭言)「「躰」と「偽」」、“SYNAPSE No.8”、ジアース教育新社、pp.2-3
 44. 2011.07 (インタビュー)「新知事に期待する——教育について——」、読売新聞
 45. 2011.08 (巻頭言)「急がば回れ(ある白昼夢)」、“SYNAPSE No.11”、ジアース教育新社、pp.2-3
 46. 2011.09 「慙愧三題」、埼玉大学教育学部社会科学専修人文社会科学分野2010年度卒業論文集『ポスト震災のゆくえ』、pp.19-27
 47. 2012.02 (巻頭言)「カントの性格論と教育」、“SYNAPSE No.14”、ジアース教育新社、pp.2-3
 48. 2012.12 (巻頭言)「「予定調和論」再考」、“SYNAPSE No.17”、ジアース教育新社、pp.2-3
 49. 2013.03 『「チボー家の人々」の思い出』、日本アスペン研究所“アスペン・フェロー No.24”、シリーズ「活字からの贈り物④」、pp.16-17

II. 寄稿文・挨拶文等

1. 1985.08 「ヨーロッパ旅行印象雑記」、東大コールアカデミーOB会“会報 No.3”
2. 1985.11 「野麦ゼミナール・ツアーに参加して」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“野麦越え1985”、pp.17-20
3. 1986.05 「大学生活と読書スタイル」、埼玉大学生生活協同組合文化委員会“流行と文化 Vol.1”、pp.3-6
4. 1987.02 「前回の野麦越えとの差異など」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“1986 The 野麦Tour”
5. 1988.05 「いつのことであつたか……野麦峠」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“‘87 ザ野麦ツアー”
6. 1988.11 「‘88 野麦越え合宿のこと」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“‘88

- のむぎの旅”
7. 1989.08 「ウィーン滞在記」、愛郷育英会『愛郷 第2号』、pp.10-11
 8. 1989.12 (金子武蔵先生への追悼文)「高円寺での思い出」、金子伝太郎編『追想 金子武蔵』、以文社、pp.221-222
 9. 1990.03 「議論の訂正とお詫び(と教訓)」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“野麦 ’89”
 10. 1990.10 「近況報告——大学教官の夏」、愛郷育英会『愛郷 第3号』、pp.28-29
 11. 1991.03 「’90年野麦越えの思い出」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“野麦 ’90”
 12. 1991.05 「ムジーク・フェライン大ホールの思い出」、梶本音楽事務所“Das Wiener Oktett Japan, 1991”、プログラム、p.
 13. 1992.04 「野麦越え1991」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“野麦1991 ぶんしゅう”
 14. 1992.10 「近況報告」、愛郷育英会『愛郷 第5号』、p.23
 15. 1993.04 「’92野麦越え」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“野麦文集 1992”
 16. 1993.07 「或る符合」、東大闘争・この25年を語る会『東大闘争 この25年を語る』pp.
 17. 1993.11 「野麦で思うこと」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“1993 野麦越え”
 18. 1995.04 (渡辺康介氏への追悼文)「変節しきれなかったのか……」、渡辺康介追悼文集刊行委員会『厚さ壁を穿つ——渡辺康介追悼文集』、pp.96-97
 19. 1995.11 「究極のロマンティズム」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“野麦 ’95”
 20. 1995.12 (祝辞)「おめでとう」、シェイクスピア同好会“TO BE OR NOT TO BE FAIR IS FOUL, FOUL IS FAIR シェイクスピア戯曲37篇を読み終えて”
 21. 1996.03 (祝辞)『『小さき山にて』の出版に寄せて』、浅野幸『小さき山にて——人生はただひと度の招待——』(自費出版)、p.
 22. 1996.07 「〈死生観〉と価値ニヒリズム」、東京大学大学院人文社会系研究科多分野交流プロジェクト研究ニューズレター“多分野交流ニューズレター No.8”、pp.2-3
 23. 1996.10 「新評議員就任のご挨拶」、愛郷育英会『愛郷 第9号』、pp.15-16
 24. 1997.03 「96野麦〈五人の武士たちへのオマージュ〉」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室“96野麦”
 25. 1997.03 (小倉志祥先生の追悼文)「お別れの言葉」、日本倫理学会『倫理学年報 第46集』開成出版、pp.282-284
 26. 1997.10 「宇宙論的死生観」、東京大学大学院人文社会系研究科多分野交流プロジェクト研究ニューズレター“多分野交流ニューズレター No.14”、pp.2-3
 27. 1997.11 「僕の十年後」、愛郷育英会『愛郷 第10号』、p.36
 28. 1998.10 「〈日ハムにわかファン〉の記」、山本茂先生編集発行“Solidarita No.261”
 29. 1999.03 「98年「野麦合宿」を終えて」、埼玉大学教育学部社会科学科経済学・野麦研究室『野麦越え 最終回記念特集号』、p.14

30. 1999.11 (寄稿文) 無題、愛郷育英会『愛郷 第12号』、p.31
31. 2000.11 (寄稿文) 無題、愛郷育英会『愛郷 第13号』、pp.36-37
32. 2001.06 「宮下先生記念リサイタル大成功」、東大コールアカデミー OB会 “東大コールアカデミー OB会会報 No.32”
33. 2001.07 (寄稿文) 無題、OUDS (オックスフォード大学演劇協会) 公演『恋の骨折り損』2001.07.18、プログラム、於：埼玉大学、(講演 a. 1 を見よ)
34. 2001.10 (特集まえがき)「こころとからだ——特集にあたって」、唯物論研究協会『唯物論研究年誌 第6号』青木書店、pp.6-7
35. 2001.10 「編集後記」、唯物論研究協会『唯物論研究年誌 第6号』青木書店、p.
36. 2001.11 「「カント」に集中」、愛郷育英会『愛郷 第14号』、p.14
37. 2001.11 「独立行政法人化への転回と埼玉大学」、埼玉大学教育学部同窓会(教友会)会報“教友 第72号”、キャンパスニュース、pp.8-9
38. 2001.12 「苦節十年半、ついに初優勝!」、 “一二三会Newsletter No.35”
39. 2002.10 「編集後記」、唯物論研究協会『唯物論研究年誌 第7号』青木書店、p.344
40. 2002.11 (寄稿文) 無題、愛郷育英会『愛郷 第15号』、p.24
41. 2002.11 「G大との再編統合&独立行政法人への移行と教育学部の未来」、埼玉大学教育学部同窓会(教友会)会報“教友 第73号”、キャンパスニュース、pp.8-9
42. 2002.12 (インタビュー) 無題、朝日新聞 '02.12.09夕刊、「孤独のレッスン34」(記者：菅原伸郎氏、主に著書6、『シェイクスピアの人間哲学』について)
43. 2003.10 「富士登山記」、愛郷育英会『愛郷 第16号』、pp.27-28
44. 2004.03 「独法化委員会の任務終了に当たって——個人的な雑感」、教育学部独法化等学部構想委員会ニュース “学問・教育と独法化 No.34 (最終号)”
45. 2004.03 「現場知らずの「夢」一言」、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科広報誌 “Forum 第8号”、p.3
46. 2004.07 (学部長挨拶)「力量ある教員の養成を目ざして」、2005埼玉大学教育学部案内『子どもたちに未来を 教育に希望を』、p.1
47. 2004.07 (教育学部長挨拶)「「人間が好き」——これがキーワード」、 “SAITAMA UNIVERSITY 2005 埼玉大学案内”、p.9
48. 2004.07 「国立大学が「国立大学法人」になる日に——個人的な雑感——」、埼玉大学教育学部社会科専修人文社会科学分野2003年度卒業論文集『花の乱』、pp.27-28、(寄稿文44. の転載)
49. 2004.11 「国立大学が「国立大学法人」になる日に——個人的な雑感——」、愛郷育英会『愛郷 第17号』、pp.3-6、(寄稿文44. の転載)
50. 2004.11 (巻頭言)「新しい連携を目ざして」、さいたま市立教育研究所 “所報 第10号”、p.1
51. 2004.12 (インタビュー)「学校教育を現場に立脚したものに変革」、「内外教育 第5531号」、時事通信社、〈きょういくズームアップ〉、pp.12-13
52. 2004.12 「埼玉県・市との連携推進と新しい教育学部を目指して」、埼玉大学教育学部同窓会(教友会)会報 “教友 第75号”、p.3
53. 2005.01 「新聞で思うこと」、「NIEニュース 第38号”、p.8

54. 2005.03 (巻頭言)「人間の魅力・教育の魅力——または「源氏物語」の薦め——」、埼玉大学教育学部同窓会(教友会)会報“学友 創刊号”、pp.2-3
55. 2005.03 (挨拶文)無題、埼玉大学生協同組合「大学生活のしおり 2005」、p.4
56. 2005.11 (インタビュー)「来年度から教員養成に一本化 教員の質、問われる」、埼玉大学新聞委員会“埼玉大学新聞 第157号”
57. 2005.12 (学部長挨拶文)「今宵のコンサートに寄せて」、埼玉大学教育学部音楽教育講座教員による演奏会「音楽の贈りもの」(2005.12.06、於：彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール)、プログラム p.1
58. 2006.03 (会長挨拶)「NIE実践発表会に寄せて」、埼玉県NIE推進協議会『2004年度埼玉県NIE実践報告書 わっ新聞発見、考え表現する喜びを』、p.1
59. 2006.03 (学部長挨拶)「2005年度版 レポート集発行に寄せて」、埼玉大学教育学部サービスラーニング実施委員会“埼玉大学教育学部「地域貢献活動」平成17年度実施報告書”、p.1
60. 2006.03 (推進本部長・学部長挨拶)「はじめに」、埼玉大学教育学部現代GP推進本部“平成17年度文部科学省選定「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)実施報告書〈大学・地域・学校連携型特別支援教育の推進——附属養護学校発達支援相談室「しいのみ」を拠点として——〉(第1年次)”、p.1
61. 2006.03 (委員長挨拶)「はじめに」、さいたま市教育委員会教員の評価に関する研究協議会“さいたま市立学校教員の評価のあり方”(最終報告)、p.1
62. 2006.09 (学部長巻頭言)「《センター》の役割——いま、教育実践総合センターに期待すること——」、「埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターニュース No.1」、p.1
63. 2006.10 (相良亨先生の追悼文)「相良先生の学恩と秘話」、『相良亨の思い出』ぺりかん社、pp.145-148
64. 2006.12 (学部長挨拶)「ご挨拶——お二人の先生への感謝の言葉とともに」、大場俊一・西原匡紀によるデュオコンサート「音楽の贈りもの」(2006.12.17、於：彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール)、プログラム p.1
65. 2007.02 (会長挨拶)「ご挨拶」、埼玉県NIE推進協議会『2005年度埼玉県NIE実践報告書 わっ新聞の輝きいつまでも』、p.1
66. 2007.03 (委員長挨拶)「はじめに」、さいたま市教育委員会・学校の組織運営に関する研究協議会“学校の組織運営に関する調査研究(中間報告書)”
67. 2007.03 (推進本部長・学部長挨拶)「はじめに」、埼玉大学教育学部現代GP推進本部“平成17年度文部科学省選定「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)実施報告書〈大学・地域・学校連携型特別支援教育の推進——附属養護学校発達支援相談室「しいのみ」を拠点として——〉(第2年次)”、p.1
68. 2007.03 (推進本部長・学部長挨拶)「ご挨拶」、埼玉大学教育学部教員養成GP推進本部“平成18年度文部科学省選定「資質の高い教員養成推進プログラム」(教員養成GP)実施報告書〈「協働する実践者」としての幼稚園教員養成——幼省年間のスペシャリスト養成をめざす地域連携型プロジェクト——〉(第1年次)”、p.1
69. 2007.03 (学部長挨拶)「2006年度版 レポート集発行に寄せて」、埼玉大学教育学部サービスラーニング実施委員会“埼玉大学教育学部「地域貢献活動」平成18年度実施

報告書”、p.2

- 70. 2007.12 (学部長挨拶)「御挨拶——「音楽の贈りもの」に寄せて」、埼玉大学教育学部音楽教育講座教員による演奏会「音楽の贈りもの」(2007.12.01、於：彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール)、プログラムp.1
- 71. 2008.03 「地域の教育を支える教員養成の定着を目指して」、埼玉大学教育学部同窓会(教友会)会報“教友 第78号”、p.2
- 72. 2008.03 「離任の辞・補遺」、埼玉大学教育学部企画室“企画室ニューズレター 第47号”
- 73. 2008.10 (巻頭言)「「地域オープンイノベーションセンター」への改称を期に」、埼玉大学地域オープンイノベーションセンター産学交流協議会“ニューズレター 第26号”、p.1
- 74. 2008.11 「還暦を迎えて」、愛郷育英会『愛郷 第21号』、p.10
- 75. 2010.02 (挨拶)無題、財団法人埼玉県国際交流協会“世界に広がれ埼玉の輪——(財)埼玉県国際交流協会と仲間たち——”、1頁分
- 76. 2010.03 「白井宏明教授の人と業績」、『埼玉大学紀要教育学部』第59巻第1号別冊1(白井宏明教授退職記念号)、pp.3-4
- 77. 2010.03 「献辞」、埼玉大学教育学部美術教育講座・学部運営企画室編『稲葉喜徳 埼玉の教育と未来——稲葉喜徳先生のご退職記念論集——』、pp.1-2
- 78. 2010.03 「はじめての出会いなど」、埼玉大学教育学部美術教育講座・学部運営企画室編『稲葉喜徳 埼玉の教育と未来——稲葉喜徳先生のご退職記念論集——』、p.83
- 79. 2010.10 「新歓合宿の思い出」、『協同・協力・自立・参加 埼大生協50年のあゆみ』、p.20
- 80. 2010.10. (鑑賞記)無題、“ピアニスト東誠三友の会 会報31号”、2010.09.12東誠三ベートーヴェン・ピアノソナタ全曲演奏会第5回演奏会、於：福島県三春町三春交流会館「まほら」コンサートホール、曲：ベートーヴェン・ピアノソナタNr.22、Nr.24「テレゼ」、Nr.21「ワルトシュタイン」
- 81. 2011.04 「初めての試み」、アウシュヴィッツ平和博物館ニューズレター“Image Vol.30”、p.4、(人間形成総合科目「人間と戦争」について寄稿)
- 82. 2012.10 (祝辞)「偉業の達成、おめでとうございます」、“ピアニスト東誠三友の会 会報39号”、ベートーヴェン・ピアノソナタ全曲演奏会の完結を祝って
- 83. 2013.01 「定年カウントダウン」、愛郷育英会『愛郷 第25号』、p.3
- 84. 2013.02 (祝辞)「両刀遣いの亀山さんと私」、『いのちのにぎわう場に遇えて——亀山純生教授定年退職記念集——』、p.67
- 85. 2013.07 「名作に触れて自分磨きを」、『日本教育新聞 H.25.7.1号』、コラム「教育ウォッチ」
- 86. 2013.07 「教員養成の曲がり角」、『日本教育新聞 H.25.7.8号』、コラム「教育ウォッチ」
- 87. 2013.07 「道徳教育考」、『日本教育新聞 H.25.7.15号』、コラム「教育ウォッチ」
- 88. 2013.07 「道徳教育四つの言葉」、『日本教育新聞 H.25.7.22号』、コラム「教育ウォッチ」

Ⅲ. 講演等

a. 専門領域

- 1. 2001.06.20 「シェイクスピアの魅力・見どころ・聴きどころ」、OUDS(オックスフォード大学演劇協会)公演『恋の骨折り損』(2001.07.18、於：埼玉大学)に向け

- ての勉強会、於：埼玉大学、(寄稿文33. を見よ)
2. 2001.06 「親鸞(1173-1262)の阿弥陀信仰の秘密」、上智大学コミュニティカレッジ「哲学のまなざし——日本の哲学思想に学ぶ——」、上智大学、(のち論文36.)
 3. 2003.10.17 「死を知る」、2003年度昭和大学学園祭、特別講演、於：昭和大学上條講堂
 4. 2007.07.25 「人間の三つの特質について」、志木ロータリークラブ第1732回例会、於：埼玉りそな銀行志木支店内
 5. 2007.09.29 「シェイクスピアの人間観察」、埼玉大学& With You さいたま公開講座“いま、シェイクスピアを読み直す” 第4回 (最終回)、於：With You さいたま
 6. 2008.02.10 「シェイクスピアにおける人間模様」、第30回冬季日本アспен・エグゼクティブセミナー、懇話会講話、於：かずさアカデミアパーク
 7. 2008.11.01 「シェイクスピアの華麗にして辛辣な人間観察——疎外と悪を中心に——」、第5回石川・日本アспенセミナー、懇話会講話、於：キャッスル真名井、(のち随筆37. に収録、さらに著書12. 『リア王と疎外 シェイクスピアの人間哲学』花伝社に収録)
 8. 2009.07.04 「禅思想にどうアプローチするか——道元と鈴木大拙を手がかりに——」、日本アспен研究所「アспен・フェローズ」第19回プログラム懇話会講話、於：日本アспен研究所 (六本木ティーキューブ14F)、(のち随筆38. に収録)
 9. 2009.08.07 「シェイクスピアをどう読むか、人間学的考察——リアの疎外と魔女の呪文を中心に——」、第23回東芝ビジネス・スクール、於：東芝研修センター
 10. 2010.10.31 「シェイクスピアの人間思想——『リア王』と『マクベス』を題材として——」、第7回石川・日本アспенセミナー、懇話会講話、於：キャッスル真名井
 11. 2012.09.23 「親鸞の弥陀信仰の深淵——「十八願」末尾「唯除」条項と「地獄は一定」を中心に——」、哲学塾 (中島義道氏主宰)、招待講演、於：哲学塾、(のち論文36.)
 12. 2012.09.29 「人間の自由について——企てとヒト化の諸問題——」、日本アспен研究所・アспен・エグゼクティブ・セミナー、懇話会講話、於：奈良ロイヤル・ホテル
 13. 2012.10.27 「親鸞と道元——日本人の宗教性の原郷を求めて——」、第9回石川・日本アспенセミナー、懇話会講話、於：キャッスル真名井、(親鸞の部分、のち論文36.)
 14. 2013.05.18 「ゲーテとカント——アспен精神の原郷を求めて——」、日本アспен研究所「アспен・フェローズ」第28回プログラム懇話会講話、於：富士ゼロックス総合教育研究所セミナールーム (六本木ティーキューブ14F)、(のち論文36.)
 15. 2013.10.05 「親鸞思想の「絶対他力」の秘密」、第10回石川・日本アспенセミナー、懇話会講話、於：キャッスル真名井

b. 教育関係

1. 2006.05.22 「日本の高等教育と教員養成の現状——埼玉大学の場合——」、台南大学での招待講演 (英語)、その後文章化・配布

2. 2006.08.08 「シェイクスピアにおける人間いろいろ」、平成18年度埼玉県公立学校等教員20年経験者研修・さいたま市教員25年経験者研修、於：埼玉大学
3. 2007.08.10 「現代自然科学と人間」、平成19年度埼玉県教育委員会20年経験者研修・さいたま市教員25年経験者研修、於：埼玉大学
4. 2007.12.14 「今、教師としてどう生きるか」、平成19年度さいたま市教育委員会「教育経営研修会（推薦）」、於：さいたま市教育研究所
5. 2008.02.08 「今、求められる『確かな学力』の育成について——教育をめぐる三つの総合——」、平成19年度第2回東部地区学力向上推進協議会（主催：埼玉県教育局東部教育事務所）、於：越谷市中央市民会館
6. 2008.06.06 「教育と人間——教育とは何か・再考——」、平成20年度20年経験者研修（主催：埼玉県教育委員会）、於：桶川市民ホール、（参加者約530名）、（のち随筆37.に収録）
7. 2008.08.12 「教育と教養——文学を中心に——」、平成20年度埼玉県立公立学校等教員20年経験者研修（主催：埼玉県教育委員会）、於：埼玉大学
8. 2009.07.24 「生きる力を育て、絆を深めるために——埼玉県教育振興基本計画「生きる力と絆の埼玉教育プラン」——」、平成21年度越谷市立小・中学校管理職研修会（主催：越谷市教育委員会）、於：越谷市中央市民会館
9. 2010.09.18 「国立大学法人の諸問題」、（南山大学・加藤泰史氏に呼ばれて）、於：南山大学
10. 2010.10.22 「子どもたちの夢の実現と教員養成の課題」、越谷市教育振興基本計画シンポジウム（主催：越谷市教育委員会）、於：越谷市中央市民会館

(2013年10月31日提出)

(2013年11月21日受理)